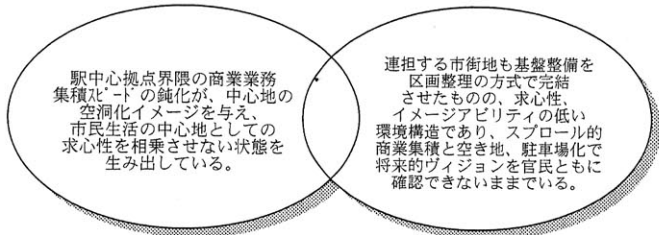


2. 君津市
中心市街地
分析の視点

君津市中心市街地は今……
…魅力の少ない駅中心拠点

2つの空洞化イメージ



まちづくりの現状

- ・後背地の市民生活の方向が隣市センターに傾くような交通体系、道路システム、歴史的成り立ちが改善されないままとなって君津駅中心地への指向性が強化されない。
- ・市民生活のセンターとなるべく商業業務にたずさわる人々の結果が弱く、民間に改善イニシアティブの動きが未だ弱い。成長管理の段階を迎えて、かつての行政主導、公共事業投入のメニューとは異なるまちづくり手法支援手法が必要になっている。

- ・駅から遠く地価負担が低い地域から日常生活の車動線に沿って、スプロール的に商業集積が元気よく始まっている。これが、駅中心拠点と連担してゆかないことが、市中心部のイメージビリティの低さ、全体としての魅力形成のインパクトの弱さにつながっている。
- ・市中心部の環境をどのように分りやすく、便利に、快適に成熟させてゆこうと行政が考えているのか、市民にビジョンを具体的に示すべき段階を迎えている。

つまり…

市民（商業者・事業者・そこに集う来街者）も行政も区画整理・基盤整備の後の次の段階として、共通の目標としての中心地の構造と生活の将来像を共に考え、まちづくりの一步を踏み出すべき時を向かえている。

3. 君津市
中心市街地
活性化基本計画
の方向性

そしてこれから 新しいまちづくりが始まる

市民に向けた「提案」としてのプロジェクト「中心市街地活性化基本計画」

3つのまちづくりの方向性



君津駅界隈から先行商業集積地区を結ぶ、ふれあい通り軸を君津10万市民にとつてのベルト状の生活センターとして位置づけ、その将来像を市民の各層に提案する。行政と市民が共に考え、協働してまちづくりを始めるために、この計画に於いて行政はかつての法的事業計画中心の施策ではなく「基本方針の確認」を行う。また、16のリーディングプロジェクトのアイデアを示し、市民と行政協働のまちづくりを弾力的にプロデュースしてゆきたい。